

竹早だより

平成27年度4月号
平成27年4月7日
東京都立竹早高等学校
文京区小石川4-2-1
電話03(3811)6961

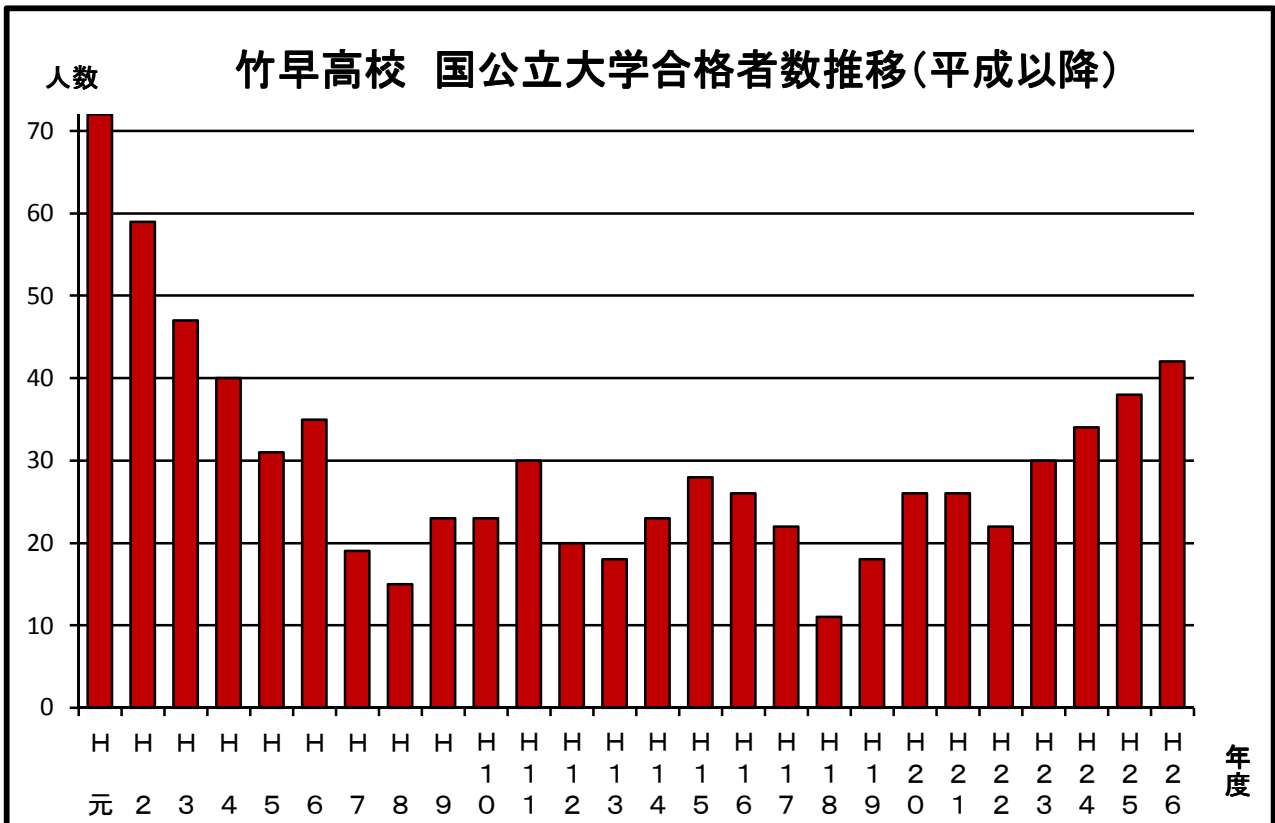
23年ぶり！国公立大学40名超合格！

校長 高田 純一

新入生の皆さん、ご入学誠におめでとうございます。そして、新2・3年生の皆さん今年度もどうぞよろしくお願いいたします。「竹早だより」は、今年度も月1回発行します。また、ホームページにも掲載しますので、見逃した方はどうぞご覧ください。

さて、今春の大学合格ですが、特筆すべきは国公立大学に現浪合わせて42名が合格したことです。40名超の国公立合格は、平成3年度以来、実に23年ぶりの快挙です。しかも、これまで、17年間にわたって跳ね返されてきた「30名の壁」を3年連続で打ち破ったわけですから、これはもう新しいトレンドの始まりと言ってよいでしょう。このグラフが力強い右肩上がりが続けられるかどうかは在校生の皆さんの「意識」一つにかかっています。今、国公立を目指そうと思っている人がその希望を持ち続けることが何よりも大切です。竹早高校を「古豪復活」と言えるところまでもっていきましょう。（過去最多は昭和45年の119名です。）

なお、今年度は私立大学についても好調な結果を残していますが、私立大は「私大総難化時代」「大学全入時代」といった受験状況や社会情勢の影響を受けやすく、必ずしも長期の比較には向かないようですので、分析は別の機会に回したいと思います。



「竹早」の由来について

以前、「竹早高校」と言うべきところを「早竹高校」と誤って言った人がいました。その時は何も感ぜませんでした。誤るには誤るだけの理由があるのだと気づきました。「形容詞＋名詞」というのが、よくある日本語の語順です。「早川」「早馬」「早業」などです。逆に「川早」「馬早」「業早」となるとやや不自然です。もちろん「足早」のように「主語＋述語」の場合がありますが、「竹が早い」では意味がわかりません。どうやら「竹早」は、自然発生した地名ではないように感じられてきました。

そろそろ種明かしをしましょう。播磨坂（はりまざか）を上ったところに旧竹早町の町名の由来について書かれた立札があり、次のように述べられています。

町名の由来は、旧町名の一つ箆笥町の箆の字を分解して上下に分けて、竹早のよい名としたといわれる。また、昔は竹の多い土地であったからともいわれる。

「竹早町」は明治2年から昭和41年まで使われた町名です。明治2年に幾つかの町を合併させる際、箆笥町（たんすちょう）の箆を上下に分解して作ったとのこと。 「箆笥」では画数が多すぎて書くのが大変だからシンプルな名前にしたいが、どこかに旧町名の痕跡を残したいという当時の人たちの気持ちがよく伝わってきます。

なお、漢字を分解して楽しむ文化は、日本に昔からあります。次の2つの例ですが、最初の歌は「嵐」を「山・風」と上下に、次の歌は「梅」を「木・毎（ごと）」と左右に分解しています。こうしたことが意識の奥底にあって発想されたものだと思います。

吹くからに 秋の草木の しをるれば むべ山風を 嵐といふらむ （文屋康秀）
雪降れば 木毎に花ぞ 咲きにける いづれを梅と わきて折らまし （紀友則）

なお、「竹早」の由来については、先日の「新入生説明会」で青山先生から新入生に対する宿題として投げかけられたものでもあります。今回の記事はその「解答・解説」に相当します。皆さんには、これからも「竹早」の名に誇りをもち、新たな伝統の担い手となってほしいと願っています。

4月・5月の主な行事予定

〈4月〉

- 7（火）入学式
- 8（水）課題テスト（1・2）
- 11（土）保護者会（2・3）
- 13（月）一斉委員会
- 16（木）定期健康診断
- 27（月）生徒総会
- 28（火）校外学習
- 29（水）**昭和の日**

〈5月〉

- 3（日）**憲法記念日**
- 4（月）**みどりの日**
- 5（火）**こどもの日**
- 6（水）**振替休日**
- 8（金）体育祭
- 11（月）体育祭予備日
- 28（木）中間考査始

